

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 健康科学部 リハビリテーション学科

講師 関根 聰美

1. 教育の責任

理学療法士養成校における教育は、多くの重要な責任を担っている。高校時代、部活に専念して学業が苦手な学生にとっても、本学において学力を向上させ、理学療法士としての能力を高めるための手助けを行い、学生がポテンシャルを最大限に引き出し、将来的に理学療法士として成功するために必要なスキルを身につける支援をしていく。また、コロナ禍において社会との関わりが制限された状況下で、高校時代を過ごした社会性の低い学生も多くいる中、学内でのコミュニケーションや講義、実習を通じて、学生が社会性を発展させ、卒業後に臨床現場で患者さんと効果的にコミュニケーションを図り、最適な理学療法を提供できるようにする必要がある。私たちは、卒業生が専門的なスキルだけでなく、人間関係の構築やコミュニケーションの能力にも優れた準備を持って臨床現場に立つことができるよう養成していく責任がある。

私は理学療法学コースの教員として、理学療法学科の専門分野の科目を中心として担当している。過去2年間の担当と授業科目は以下の通りで、各授業のシラバスは健康科学大学のホームページで公開されている。

主要な担当科目は2年次における理学療法の一部として必要な日常生活活動学や義肢装具学と、他の授業の習熟度を上げるように構成した理学療法の演習Ⅱなどを担当している。

2021年度

科目名	時期		受講者
義肢装具学	2年/3年前期	必修	70名
義肢装具学	2年/3年後期	必修	102名
日常生活活動学	3年前期	必修	70名
日常生活活動学	2年後期	必修	94名
クリニカルリーディング	2年後期	必修	94名

2022年度

科目名	時期		受講者
運動学実習	2年前期	必修	72名
義肢装具学	2年/3年後期	必修	71名
日常生活活動学	2年/3年後期	必修	71名

義肢装具学実習	3年前期	必修	92名
義肢装具学実習	3年前期	必修	5名
理学療法演習Ⅰ－1	1年前期	必修	48名
理学療法演習Ⅰ－1	1年前期	必修	31名
理学療法演習Ⅰ－2	1年後期	必修	77名
理学療法演習Ⅱ－1	2年前期	必修	74名
理学療法演習Ⅱ－2	2年後期	必修	31名
理学療法演習Ⅱ－2	2年後期	必修	35名
物理療法学	3年前期	必修	97名
理学療法特論	4年後期	必修	72名
クリニカルリーズニング	2年後期	必修	66名

・授業外活動

本学での授業の他に、以下のような活動をしている。

- 1) 安全衛生委員会
 - 2) 人権対策委員会
 - 3) 富士河口湖町健康のまちづくり審議委員会 委員
- 2) については理学療法演習などの演習では特に授業内での学生との関りや声掛けの工夫、学生同士のやり取り、Discussion の際などには注意するようにすることができる。また、医療者として実習や卒業後の患者さんとのやり取りについて意識づけに活かすことができる。
- 3) の活動では現在健康におけるまちづくりを地域でどのように考えているか、行政と連携しているか、地域の方、他の職業との連携の知識について日常生活活動学の地域連携などで学生に提供することができる。

2. 教育の理念・目的

本学の教育理念は、社会に豊かな人間力、専門的な知識・技術力、そして開かれた共創力を持った人材を育成することに焦点を当てており、特にその人の特性を理解し、個々に合わせたリハビリテーションの提供をしなければいけないことから以下のようないい理念を持って、学生の人材育成を考えている。

1) 豊かな人間力を持った魅力のある理学療法士の養成:

豊かな人間性を育むために以下のような教育工夫を実施しています。倫理的な価値観と人間性を強化するために、教養の授業を受けた後の専門性の多い授業に入り、学外実習前の

説明ではうまくいかなかった過去の事例を伝えながら必ず倫理教育を提供する。授業内で多くの症例を通して、専門性に合わせた倫理観も習得し、これにより、学生は他者への思いやりを深め、専門職においても高い倫理観を持つことができる。

2) 学内で専門的な知識・技術力を身につけることができる:

学内の授業において演習グループ毎に少人数で行う授業を設けて、より専門的な技術力を身に着ける必要がある。クリニカルリーズニングの授業では、臨床推論を行うことで、学生に臨床的な問題に対処するための評価の解釈や治療計画を立案するスキルを向上させます。学生は実際の症例の状態を統合と解釈して、患者の状態や適切な介入を判断できるようトレーニングをすることで、症例に基づいた意思決定能力を養っていくことができるようになってくる。

これらの教育工夫により、学生は専門的なスキルと共に、豊かな人間性を持ち、専門的な知識技術力を身に着けることに焦点を当てた教育を提供することができるようになる。

3. 教育の方法

専門的な授業が多い中、わかりやすく説明するために、実技や演習を通して患者像を想像しやすくしたり、実際の装具を使用するなどして体験を作ることによってエピソード記憶を用いて定着しやすくしたり、実践でもすぐに対応できるように配慮している。

・症例を通して行う問題解決型授業

問題解決型授業では、臨床状況に基づく症例を中心に学習が展開される。これにより、学生は教科書の知識を現実の臨床状況に適用し、大学内で実務的なスキルを養うことができる。例えば、特定の症例像についての動画をなるべく使用したり、実際のケースを活用し、学生に臨床思考過程を学習させることによって、学生も興味を持ち授業に参加でき、将来の患者像を想像することができる。

クリニカルリーズニングの授業では、学生に対して症例から必要な評価項目や問題点を抽出するスキルを臨床に即して教えている。症例を分析し、患者の状態を正確に把握するために必要な情報収集や評価を識別する能力は、臨床での実務において不可欠である。

・実際の補助具や装具、機械などを扱いながら行う実践授業

義肢装具学や物理療法の授業においては、実際の義肢装具や機械の展示やデモンストレーション、実験を行う機会を提供している。

装具の実物を視覚的に確認し、触ることで、理論的な知識だけでなく、イメージが確認でき、実践的なスキルも磨くことができるためである。これにより、装具であれば、

学生は装具のデザイン、材料、製作技術、調整方法などを身近に体験し、将来の臨床での実践に備えることができる。この工夫は、理学療法学生の専門知識と臨床的な能力を高めることに貢献している。

4. 教育の成果・評価

FD 委員会による授業評価アンケートに基づき、改善を図っている。シラバスの変更を行うことや、遠隔授業と対面授業を変更するなど、より学生にとって有意義な授業になるように検討している。

・義肢装具学

2021 年度、義肢装具学では遠隔の双方向授業を行っており、授業内にてカメラを利用して実際の実物を見せるなど努力を行い、全体で概ね高評価な 4.3 であった。だが、遠隔授業では実際に装具を触ったり、装着したりすることが困難であり、コメントにもイメージができにくかったことや、登校日があった方が良いと話があったように、2022 年度には対面授業に変更した。

対面授業においては、装具を実際に触ってもらう機会を設けたり、オンラインでは装着の仕方を学生と一緒に練習するなどの対応をすることができた。そこで、2022 年度のアンケートにおいては全体で 4.5 に改善することができた。

ただ、まだ装具の数が足りなく、装着機会や触ってもらう演習の時間が少なくなっているため、来年度に向けて、必要数を調整するなどして、実技の時間を増やせるようにしたり、よりイメージしやすい症例を取り入れたりしながら更に改善をしていきたい。

・日常生活活動学

2021 年度は対面授業において問題解決型の課題を取り入れたり、より学生が興味が湧くように多くの症例について取り入れながら 4.5 の高評価であった。2022 年度においては、授業カリキュラムの調整につき、2021 年度に対面で行っていたが遠隔授業に変更が行われ、授業の一部をより学生が参加しやすいように工夫を行った。毎回の授業において課題を出し、提出してもらう、必要に応じて参加して学生に答えを言ってもらうなど、対面に近い状況で行えるように注力し、2021 年度の対面型と同じ 4.5 の評価で意見としても参加しやすい内容となっていたなどの評価であった。ただ、遠隔授業においてもより学生へ授業に参加してもらうよう、授業内での学生への問い合わせを増やしたりするなど工夫をして改善していきたい。

5. 今後の目標

短期目標：遠隔授業の充実化

現在、コロナ禍を経て、卒業後の学習でも遠隔の機会が増えてきている。遠隔授業の実施において、対面授業と同等の学習効果を確保するため、よりインタラクティブな要素を組み込む。例えば、遠隔授業での学生への問いかけやディスカッションの時間を増やし、学生の参加と興味を引き出す方法を開発する。

そうすることで、学生の学習体験の向上につながり、教育の品質を向上させる重要なステップとなる。また、遠隔授業においてより学生がアクティブラーニングを行えるようになるようになることで、卒業後も学習する際にそのスキルを活かすことができる。

長期目標：専門性と倫理観の高い学生の養成

長期目標として、学生が専門的な知識と技術力を高め、臨床に出た後に適切な理学療法を提供するだけでなく、興味を持った分野をより深めることができるような教育を心がける。併せて倫理的な観点からも優れた理学療法士としての教育を提供することを目指す。倫理教育をさらに強化し、患者への思いやりや倫理観を高める取り組みを展開する。